

2016年11月27日(日)朝10:10～

待降節第1、讃美練習等

11月第4待降節第1共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：主の来臨

聖書：マタイ 24章36～44節

＜口語訳＞

新約聖書40～41頁

マタイ 24章36～44節

＜新共同訳＞

新約聖書48～49頁

マタイ 24章36～44節

＜新改訳第3版＞

新約聖書51頁

マタイ 24章36～44節＜塚本訳＞

新約聖書145頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒今日の聖書箇所は、教会暦の「**待降節第1主日**」で、牧会手帳に基づいています。

⇒「**待降節**」は、アドヴェントとも言い、「待つ」意味から、教会暦自体が**イエス・キリスト様**の地上の生涯を描く内容で、人となられ、父なる神に従い貫かれた**神信仰の生涯**を覚え、聖餐、礼拝説教等と共に、主を記念するもの。

⇒「**待降節**」には、同時に、**収穫感謝祭**が旧約の仮庵祭(年の終わりの収穫祭)の意味も加えたように「**主への再臨信仰**」も含んでいます。

⇒**マタイ24:36～44**は、「**神信仰の目覚め**」を**主**が、弟子たちに命じている箇所です。

本論；

◇本日、マタイ書24章36～44節から主の使信に思い・心をとめます。

◆マタイ24章36～41節；使徒マタイは、主の再臨が突然訪れるとの主の予告を示します。

◇36～44節；塚本訳◆来臨の日

「36 ただし(人の子の来る)その日と時間とは、ただ父上のほかだれも知らない。天の使いたちも知らない。

37 人の子の来臨は、ちょうどノアの(洪水の)時のようであるから。

38 すなわち洪水の前のあそこ、『ノアが箱船に入った』日まで、人々は飲んだり食ったり、嫁にやったり取ったりして、

39 洪水が来て一人のこらずさらってゆくまで、それに気づかなかった。人の子の来臨もこのようである。

40 その時、二人の男が畑にいと、一人は(天に)連れてゆかれ、一人は(地上に)のこされる。

41 二人の女が臼をひいていると、一人は連れてゆかれ、一人はのこされる」と、使徒

マタイは語っています。

◇36～41節；「(人の子の来る)その日と時間とは、ただ父上のほかだれも知らない。天の使いたちも知らない」、「人の子の来臨は、ちょうどノアの(洪水の)時のようで」、「洪水が来て一人のこらずさらってゆくまで、それに気づかなかった。人の子の来臨もこのようであり」、「二人の男が畑にいと、一人は(天に)連れてゆかれ、一人は(地上に)のこされ」、「二人の女が臼をひいていると、一人は連れてゆかれ、一人はのこされる」のです。

⇒主は、「人の子」であるご自身を含め、誰も、主ご自身の来臨の日を知る者はいないと、予告しておられます。但し、父なる神のみは、すべてをご存じです。

⇒「ノアの(洪水の)時」が、「突然の主の来臨」の事例として語られますが、「ノア自身」は、神から「(洪水の)時」を知らされて、箱舟を建造したのですが、当時の人々には、神が直接は、告げられなかったのです。

⇒「畑の男」、「臼をひく女」の各1人が、連れ去られるのも、突然の出来事を示す事例です。

◆ マタイ24章42～44節 ;使徒マタイは、主の再臨に備え、目を覚ましているように、主のしもべである弟子たちに命じられたことを示します。

◇36～44節 ;塚本訳◆ 来臨の日

「42 だから(たえず)目を覚ましておれ。あなた達は主がいつの日来られるか、知らないのだから。

43 あなた達はこのことを知っているはずだ。  
——夜の何時に泥坊が来るとわかっておれば、家の主人は目を覚ましていて、みすみす家に忍び込ませはしないであろう。

44 だから、あなた達も用意していなさい。  
人の子(わたし)は思いがけない時に来るのだから」と、使徒マタイは語っています。

◇42～44節 ;「あなた達」は、「主がいつの日来られるか、知らない」、「夜の何時に泥坊が来るとわかっておれば、家の主人は目を覚ましていて、みすみす家に忍び込ませはしない」、「人の子(わたし)は思いがけない時に来る」のだから「(たえず)目を覚ましておれ」、「あなた達はこのことを知っているはずだ」か

ら「**あなた達も用意していなさい**」と、**マタイ**は、「**(たえず)目を覚ましておれ**」、「**用意していなさい**」との**主の命令**を記録しています。

⇒「**人の子(わたし)は思いがけない時に来る**」ことは、「**ノア**」、「**畑の男**」、「**臼をひく女**」に共通した「**神信仰の備え**」です。

⇒**主**が繰り返し語られるのは、「**主の来臨**」が、**確実な事**だからであると共に、「**神信仰**」に生きぬく「**神信仰に伴う生活**」の堅持を求めておられるからです。

⇒「**ノア**」、「**畑の男**」、「**臼をひく女**」は、日常生活者で、私たちに求められているのも、**神信仰中心の日常生活**です。

⇒**キリスト者の呼吸**は、**神のみことば**を吸い、**心の中の罪**を吐くことです。

⇒日ごとの「**みことばへの静聴、祈りと告白**」は、不可欠ですし、**主の教会での神礼拝、讚美、祈り**は、**呼吸するキリストのからだ**には、欠かすことができません。

⇒時には、健康維持のための深呼吸が必要ですが、日常生活で欠かせないのは、意識しないでもできる呼吸です。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。
- ⇒今日の**マタイ24:36～44**は、「**神信仰の目覚め**」を**主**が、弟子たちに命じている箇所です。
- ⇒「**主の弟子・キリスト者**」にとっての「**(たえず)目を覚ましておる**」ことは、**個人**あるいは**共同の神礼拝**です。
- ⇒「**主の来臨の日**」を知らなくても、それが突然でも、「**内住の主**」を日常的に覚える生活が、**神礼拝、神讚美、神への祈りの基盤の上**にあるなら、意識しなくても、「**主の思い**」を吸い込むことができ、心を吐き、委ねれます。